

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第二主日礼拝

2021年6月6日

前奏：

聖名による挨拶

牧師：父と御子と聖霊の御名によって。アーメン。

会衆：アーメン。

牧師：主よ、わたしのくちびるを開いて下さい。

会衆：そうすれば、私の口はあなたのほまれを告げるでしょう。

一同：父と御子と聖霊の神に、栄光が、初めにそうであったように、
今も、そしてとこしえまでもありますように。アーメン。

招きのことば：詩編 130 編 1-4,7-8 節

【都に上る歌。】深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。

主よ、この声を聞き取ってください。嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください。

主よ、あなたが罪をすべて心に留められるなら 主よ、誰が耐ええましょう。

しかし、赦しはあなたのもとにあり 人はあなたを畏れ敬うのです。

イスラエルよ、主を待ち望め。慈しみは主のもとに 豊かな贖いも主のもとに。

主は、イスラエルをすべての罪から贖ってください。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆：私たちは生まれつき 自分中心 わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストに
よって、どうかあわれんでください。アーメン。 (短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子 イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。

ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言
します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して
行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、

ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天にのぼり、
父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、
からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。**アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

人々の顔や人々のうわさに私たちはたやすく影響されます。何とか幸せに生きていきたいと願って、いろいろなことに縛られて歩みます。神様、あなたはそのような窮屈で出口のない生き方をイエス様によって愛と喜びへと変えて生きがいを与えてくださいます。

み言葉によって私たちの罪を示してキリストへ導き、洗礼によって神の子とし、聖餐によって信仰を強めてくださいます。どうぞ世や自分を見つめ続ける私たちの目を、イエス様に向けさせてください。今朝もイエス様の愛と憐れみに心をとめさせてください。そこに赦しと命があるからです。

新型コロナウイルスの感染拡大によって今多くの方々が苦しみの中におられます。私たちも毎日こわくなります。緊張します。どうぞ、助けてください。

病気の人のお世話をしたり、生きていくために必要なものを整えて働いてくださる方々が苦労しています。お支えください。

今週もビデオやプリントによって、私たちは別々のところで同じ礼拝にあずかります。このために力になってくださった方々を祝福してください。

私たちはよみがえられた主イエス様のみ言葉を聴きます。どうぞお語りください。

このお祈りを、イエス様の御名によっておささげいたします。**アーメン**。

使徒書：コリントの信徒への手紙第二 4章13節-5章1節

「わたしは信じた。それで、わたしは語った」と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っているので、わたしたちも信じ、それだからこそ語ってもいます。主イエスを復活させた神が、イエスと共にわたしたちをも復活させ、あなたがたと一緒に御前に立たせてくださると、わたしたちは知っています。すべてこれらのことは、あなたがたのためであり、多くの人々が豊かに恵みを受け、感謝の念に満ちて神に栄光を帰すようになるためです。だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからで

す。わたしたちの地上の住みかである幕屋が滅びても、神によって建物が備えられていることを、わたしたちは知っています。人の手で造られたものではない天にある永遠の住みかです。。

福音書：マルコによる福音書 3章 20-35 節

イエスが家に帰られると、群衆がまた集まって来て、一同は食事をする暇もないほどであった。身内の人たちはイエスのことを聞いて取り押さえに来た。「あの男は気が変になっている」と言われていたからである。エルサレムから下って来た律法学者たちも、「あの男はベルゼブルに取りつかれている」と言い、また、「悪霊の頭力で悪霊を追い出している」と言っていた。そこで、イエスは彼らを呼び寄せて、たとえを用いて語られた。「どうして、サタンがサタンを追い出せよう。国が内輪で争えば、その国は成り立たない。家が内輪で争えば、その家は成り立たない。同じように、サタンが内輪もめして争えば、立ち行かず、滅びてしまう。また、まず強い人を縛り上げなければ、だれも、その人の家に押し入って、家財道具を奪い取ることはできない。まず縛ってから、その家を略奪するものだ。はっきり言うておく。人の子らが犯す罪やどんな冒涇の言葉も、すべて赦される。しかし、聖霊を冒涇する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う。」イエスがこう言われたのは、「彼はお汚れた霊に取りつかれている」と人々が言っていたからである。イエスの母と兄弟たちが来て外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた。大勢の人が、イエスの周りに座っていた。「御覧なさい。母上と兄弟姉妹がたが外であなを捜しておられます」と知らされると、イエスは、「わたしの母、わたしの兄弟とはだれか」と答え、周りに座っている人々を見回して言われた。「見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。」

説教「神のみこころを行う人」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、み言葉をとりつぎます。

教会の暦は大きくふたつの季節にわかれています。どちらもイエス様が中心です。ひとつはイエス様の生涯を語る季節です。神様が私たちにイエス様をお与えくださったクリスマスを待ち望むアドベントから、イエス様の死とよみがえりを祝うイースター、そして聖霊がイエス様の約束通りに使徒たちにくだった聖霊降臨、ペンテコステを祝いました。そしてもうひとつの季節はイエス様が教えられたことを語る季節です。先週から聖霊降臨後主日がはじまり、晩秋のアドベントまで、今年は26の主日がこれにあたります。

イエス様は礼拝堂で神様の権威にあふれて聖書を解き明かし、罪を赦す神の子としての権威をもって病をいやしたり悪霊を人から追い出したりしました。当時社会では相手にされなかった徴税人や罪びとと呼ばれる人々と親しく食事をとともにされ、人が労働を休んで神様を覚える日とされていた安息日に、神の子であるイエス様はいのちをすくうために病気を癒しになりました。そんなイエス様のうわさはすぐに広まりました。多くの人々がイエス様に期待をして付き

従いました。今日読まれたマルコの福音書3章20節では、イエス様は山に登って12人のお弟子たちを選んで使徒として任命し、いよいよ働きを広げていく備えをなさったあと、いったんおうちに帰ってきておられます。そこに群衆が押し寄せたのでイエス様は喜んで迎えました。食事の暇もないほどお忙しくされています。

そのあとの展開は少し驚きます。意外にもイエス様の身内のものたちが来て、イエス様を取り押さえようとしてきました。人々を大切に、食べる暇もないほど人々を助けることに没頭しておられるイエス様をなぜ身内の人たちが取り押さえようとしているのでしょうか。それは人のうわさに耳を傾けていたからでした。一部の人々はあまりに目立つイエス様のお話やみわざを見て「あの男は気が変になっている」と噂をしていたのです。

そんな人々の中には、いなかのこのガリラヤ地方まで都エルサレムから下ってきた律法学者とよばれる一群の人がいました。彼らはなんと、イエス様のことを汚れた霊にとりつかれていて、その悪霊のかしらであるベルゼブルに取りつかれているのでその力で他の弱い悪霊を追い出している、と悪口を言っていたのです。

イエス様は彼らを恐れた身内の人たちに身を任せたでしょうか。いえ、むしろ彼らを呼び寄せ、彼らの良識に訴え、噂は正しくないことを丁寧に教え、聖霊を冒瀆しないように諭されました。噂のようにもしサタンがサタンを追い出すなどしてサタンが内輪もめをしているとするならサタンは立ち行かない。反対にわたしはサタンの一番強いものを縛ってサタンのすべてを掌握して滅ぼすものなのだ、と言われたのです。このお話は集まっていた群衆も聞いていたことでしょう。

なぜ律法学者と呼ばれる人々はイエス様のことをこんなに悪く言っていたのでしょうか。それは歴史によります。イスラエルの民はかつて神様に選ばれ、律法をあずかり、世界の人の救いのために救い主を待ち望む民として歩むように任じられていました。アブラハムには地上の氏族はあなたによって祝福に入ると言われ、ダビデの王国が建てられ、ソロモンはエルサレムの神殿建築で地上のすべての民が主こそ神であってほかに神がないことを知るに至るようにと民を祝福しました。

しかし、イスラエルの民は神様に背を向けました。荒野をさまよったときも何度も神様に背いて神様を怒らせました。もともと小国だったこともあり周りの国の力に押され、また彼らと手を組んで生き延びる妥協の道を選び、まことの神に信頼することよりも、他の神々をあわせて拝んだのです。度重なる預言者たちの警告にもかかわらず、神様だけを愛するように言われていた律法をないがしろにしてしまいました。

そのためついに、隣国の強国、バビロン帝国の捕虜となりエルサレムは破壊されてしまいました。バビロンで民は猛烈に反省しました。もう律法を破ることはしない、と誓いました。それで神様に導かれてエルサレムを再建してから400年間、いろいろありましたが神殿で礼拝をつ

かさどる祭司たちとともに、律法学者という人々が民を教えていたのです。二度と神様のおきてを破って国が破滅しないように目を配っていました。

そして、そこにイエス・キリストが登場したのです。罪びとを受け入れてともに食事をし、罪を犯した人に赦しの宣言をし、罪の罰とされていた病気の力や悪霊の力に支配されていた人々をイエス様は権威をもって解き放ったのです。律法で人は休むように言われていた安息日に、イエス様は挑戦的に堂々と神の子として病人を癒しました。民の多くがイエス様を求めて群衆をなして押し寄せていきました。律法学者にとっては放っておけないことです。律法を教える自分たちの顔がつぶされているという思いもさることながら、律法をないがしろにして国がまた滅びてしまうと恐れました。それでイエス様はイスラエルの敵だ、悪霊に取りつかれている、となかばヒステリックに糾弾したのです。

イエス様に反対する律法学者のこのような気持ちはわかりますね。けれどもイエス様は律法学者のほうが聖霊を冒瀆するものだと言われました。イエス様を信頼する心をくじくからです。律法学者はイスラエルの民がなぜ破滅したのかの理解を間違っていました。かつて民は神様に逆らって律法をおこなわなかったから破滅したと思っていたのです。だから律法を守るように民を教えていかなければならないと使命感に燃えていたのです。けれども、イスラエルの民はいつも罪深く律法を行っていませんでした。しかし、神様はアブラハムに約束したこと、ダビデの約束したことに誠実であられました。神様に立ち返って祈るなら、神様は恵みによって赦して民を新たにすると、いつも預言者によって語られました。民が破滅したのは、律法を守らなかったからというより、律法をまもれないことを悔い改めて恵みの神様の約束に頼らなかったからなのです。イエス様は罪深い人々をせめて、正しく歩まなければ神様の破滅を受けると脅すためにこられたものではありません。民を愛し、民を赦し、民を神様を信頼するものとして建て上げ、多くの人々の祝福となるように、神様の恵みによって民を新しくするために来られたのでした。

いかがでしょうか。人はたたりを恐れます。また人は人から悪く言われる噂になることを恐れます。それで自分の行える範囲で注意深く生活を律します。そしておきてをまもって歩んでいけば何とか破滅はまぬかれる、何とか生き残っていけると思うのです。イエス様はその恐れから解き放ってくださいます。自分のできる範囲で、生活を律していきながら、恐れと不安とにさいなまれる私たちを、十字架にかかってすべての罪の償いをあなたのためにしてくださいます。神様にあなたにかわって謝ってください、神様の赦しをあなたに与えてくださいました。人々を恐れ、噂をこわがるのではなく、人々を大切に、人々の祝福を願い、最善をつくす新しい心を与えてくださいました。私たちは自分の生活を律してこじんまり生きることと、それでも不安と焦りの中に生きる以外になかったのです。しかし、イエス様は、あなたの罪は赦されました、と権威をもって宣言してくださいます。私たちは洗礼によってこのイエス様の赦し

といのちが私のためだったことを受け、聖餐の恵みによって罪を赦すために割かれたイエス様のからだと流されたイエス様の血をいただき、信仰を強め育てていただくのです。

イエス様の生涯は、私たちの救いのための生涯でした。罪を赦し、新しい命を与えて、イエス様がともに歩んでくださる神の子としてくださるための歩みでした。イエス様の教えはイエス様が私たちの救い主であり、私たちの生涯の主であることを威厳をもって教え、私たちの罪を赦すとともに私たちを新しいのちに生かしてくださる力あることばです。悪霊は私たちによそ見をさせます。イエス様以外のものに目を向けるようにいざないます。世の中の波や風を見せます。イスラエルの民は自分たちの弱さとまわりの国の強さをくらべて、よく妥協の道を選び神様の約束から目が離れました。悪魔は私たちに偽りを吹き込みます。世の中の小市民的な楽しさや華やかさの呆けることが幸せだと思わせます。困っているときにはお金さえあれば、友だちさえいれば、助けてくれる人さえ現れれば幸せになると思わせます。悪魔はそのようにして私たちを破滅に導きます。頼りにならない富や、自分の立場上私を裏切ることもありえる人々に望みをおきながら、まことの安心も、まことの幸せも、まことの生きがいも得ないまま滅びてしまいます。

イエス様はその悪魔を縛ります。十字架で死んでくださったとき、悪魔と死と世の力をもろともに滅ぼして下さり、よみがえって勝利を得てくださったのです。そして私たちはイエス様にあつてこの勝利にあずかりました。罪の力は私たちを支配せず、イエス様にあつて赦されました。そしてよみがえりのいのちにあずからせていただきました。ですから喜んで、自発的に、生きがいを感じて、神様と隣人を大切にして歩みます。破滅を恐れておきてを踏み外さないようにという恐る恐るの気持ちではありません。教会では互いに立て上げるように、互いに恨みを忘れ、未熟さを受け入れ、あやまちを責めないで、むしろ自分の自己中心や具体的な思いや言葉や行いにあらわれた罪を認めて謝り、償います。さらに互いの成長に役立つように、互いの新しい一歩の励ましになるようにできることに気づいて、心いっぱい役に立つように成長していきます。私たちは世にあるかぎり悪魔の誘惑にさらされています。イエス様はあなたの罪を赦し、あなたを新しい命で漲らせ、あなたの救い主として、主としてあなたを支えます。

イエス様のお母さんと兄弟姉妹たちが心配して家の外に来てくれました。イエス様はそのことを伝え聞いて周りの人々を見まわして「わたしの母、わたしの兄弟たちは、神の御心を行う人である」と言われました。イエス様を信じて、神様の子どもとして歩む人をイエス様はわたしの母、わたしの兄弟、姉妹だと言ってくださいます。イエス様は聖霊によって私たちにその信仰をつくり、強めてくださいます。

マルコ 3:35 「神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いを、キリスト・イエスにあつてまもつてくださいます アーメン

讚美歌 355 番 「主を仰ぎ見れば」 1, 3, 4 節

1 主を仰ぎ見れば 古きわれは 現世(うつしよ)と共に 速(と)く去りゆき
われならぬわれの あらわれきて 見ずや天地(あめつち)ぞ あらたまれる

3 うるわし慕わし とこ世の国 うららに恵みの 日かけ照れば
生命の木(こ)の実は みのり繁く もはや死の影も なやみもなし

4 つゆだに功(いさお)の あらぬ身をも 潔めてみくにの 世嗣(よつぎ)となし
黄金(こがね)のみとのに 住ませたもう わが主の愛こそ かぎりなけれ **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用のかてを今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みに
あわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり
アーメン

頌栄の讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ。 **アーメン**

祝福のことば

仰ぎこい願わくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき御交
わりが、それぞれのところで共に礼拝にあずかっておられる一同とともに、今日も、この一週
間も、いく久しくとこしえまでも、ゆたかにありますように。 **アーメン**

アーメン三唱、後奏